

(様式1)

令和5年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立西小学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

- 学校運営方針を共有し、外部人材やボランティア活用の仕組みづくりを行い、外部人材を使った授業の推進に寄与していく。
- 教職員の働きがい改革について、これまでの取組みを検証し、さらなる推進を後押しする。
- 委員として、子供たちや教職員の様子を知り、地域の中の学校を支えるよう努める。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

学校運営の基本方針について、内容を理解した上で熟議していくことができた。運営協議会も来年度で3年目となるため、「進んで学び共に世界で生きる子」の達成についてなど、さらに意見を出し熟議を深めていかなければならない。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

教職員と直接懇談したことで、児童の実態や地域性を先生方の視点から知ることができた。懇談することで、学校と地域のそれぞれが役割を持ち、相互に連携していく必要性を認識し、ボランティアの在り方についても熟議することができた。また、教員の働きがい改革において、ボランティアが入ったことで教員も子供も安心して学習を進めることができ、一歩前進したと感じる。今後、さらに熟議を深めていくには、学校の現状をよく見て課題を見つけていくことが必要である。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

今年度は、学校支援コーディネーターを迎えることができ、取組みの様子をコミュニティ・スクールだよりで発信し、周知され始めている。まだ、初期の段階であるため、一つ一つ取組みを続けていくことで、意義が次第に理解されていくように感じる。今後、県居協働センターなどにも便りを置いてもらうなどして、ボランティア人材が広がっていくための効果的な情報発信について考えていきたい。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- 学校教育目標に対する具体的取組みや子供の表れを把握し、学校の課題を見つけ解決策について熟議していく。
- ボランティア人材の集め方や組織の作り方について考え、子供たちや教員を支援する「応援団的組織」の仕組みを整えていく